国土交通省中部地方整備局木曽川上流河川事務所
揖斐川第二出張所

『往時を語り掛ける常夜燈！』　揖斐川中流域の渡し船

・　大垣市と安八町の間を流下する揖斐川において、以前はこの辺りに、中山道の「呂久の渡し」、美濃路の「佐渡の渡し」、竹鼻街道の「平の渡し」と言う３つの渡し船があり、この船で人々は往来をしていました。これらの渡し船は、道路橋の開通に伴って同時に廃止されましたが、往時の面影を残す常夜燈が、現在でも残されています。

平町の常夜塔

■平の渡しは、大垣と竹鼻（羽島市）を結ぶ航 路。昭和38年（1963）の大垣大橋の開通と 同時に渡船は廃止。常夜塔は、弘化3年（1846）に建立。

揖斐川左岸38.4Kp

佐渡（東町）の常夜燈

■佐渡の渡しは、佐渡川（現　揖斐川）で隔てられた美濃路を佐渡村（現　大垣市東町）と対岸の西結村（現　安八町西結）を結ぶ航路。常夜燈は、嘉永7年（1854）に建立。

揖斐川右岸41.8Kp

呂久渡船場跡

■この地には、かつて呂久川（揖斐川）が流れ、天正8年（1580）に織田信忠により、呂久の渡しが開設。
　この呂久の渡しは、江戸時代には、中山道の渡し船となり、交通の要所として利用。大正14年（1925）、呂久の渡しは、木曽川上流改修の揖斐川新川付替工事完成により、川の流れが直線化され、揖斐川が東へ300m移動したため、渡し船は廃止となる。

平の渡し　（S31.10月撮影）
出典：写真集「輪中」より

【出張所コメント】
・左写真の「平の渡し」は、主として、大垣と森部輪中の安八町の人々に利用されていました。明治５年に平村共同による経営として開設され、大正５年頃には渡船も大型化され、40人位が乗船ができた言われています。行商のおばさん、孫を連れてのおばさん、野良仕事に行くお百姓さん。渡船に乗って通勤耕作する風景は、明治の三川分流工事により、平村は新川により分断されたため、対岸に耕地を持つことになったためです。

※「常夜燈」は、渡し船の航路標識、航路安全祈願および伊勢両宮への献灯等のために建立されたものです。